

主な質問と回答

質 問	回 答
<b>漁業の再開などについて</b>	
<p>漁業再開時には、何隻ぐらいの船で始められそうですか。 現在稼働できる船はどれくらいですか。</p>	<p>700 隻程度が被災。半数 350 隻程度が復旧しているので、今のところ、稼働できるのは、500～600 隻ではないかと思います。</p>
<p>沿岸漁業の再開はいつごろですか。 漁業の再開の条件はどのようなものですか。</p>	<p>流通から販売まで含めて、試験的に操業を開始していきたいと考えていますが、消費者が安心して購入する状況にならないと再開は難しいと考えています。 未知数の部分が多いので、現在行われている様々な研究の成果に期待しているような状況です。</p>
<p>底に棲む魚の放射能の数値が下がらなければ、再開できないのではないですか。</p>	<p>魚の食性や生体への濃縮率等で変わるとは思いますが、判断するためには、調査を重ね、さらにデータを収集して積み重ねていく必要があると考えています。</p>
<p>底曳漁業や刺網漁業など、漁業の種類や獲る魚ごとに、漁業を再開していくことは、可能でしょうか。</p>	<p>科学的なデータを見ると、漁業の種類別、魚の種類別に、漁業を再開していくのが妥当ではないかと思います。</p>
<p>漁業の種類によっては、泥ごと魚を獲る方法もありますが、そうした場合、放射能の影響は大きくなるのでしょうか。</p>	<p>調理の段階で洗い流されますので、食べる段階では大差ないと思います。</p>
<p>福島海(魚)は大丈夫なのでしょうか。</p>	<p>国の規制値はセシウム 500Bq/kg ですので、現時点では、福島海(魚)は、安全なものではないものに分かれています。 なお、現在、福島県沿岸海域では、漁業の自粛を継続していますので、沿岸海域で獲った魚が流通することはありません。</p>
<p>海上(実習や部活動など)での活動は問題ないのでしょうか。</p>	<p>今の状況であれば、海上での急性被ばくの問題はありえないと思います。 なお、漁業については、国から 20km 以遠の就労は、可能との見解が示されています。</p>
<p>港周辺で釣った魚を食べてはいけなないのでしょうか。 廃棄しなければならないのでしょうか。</p>	<p>一部の魚を除き、摂取規制はありませんが、福島県で検査を行っており、その結果をホームページにも公表していますので、その数値を参考にして、自己責任で判断してください。</p>

質 問	回 答
<p>漁業再開までの期間、どのくらいまで我慢できるでしょうか。</p>	<p>1日でも早く再開したいという思いです。待っているだけでは、漁業者も魚屋も、みんな立ち行かなくなってしまうと思うので、少しずつでも前に進んで行きたいと思っています。</p>
<p>漁業の再開などを予測するには、どのくらいの期間が必要でしょうか。</p>	<p>放射能の検査を継続して行うことで、傾向が把握でき、ピークの値を確認できれば予測が可能ですが、数値が上下している現状では難しいと思います。 また、現在の調査に加え、底に棲んでいるプランクトン等の調査も継続していく必要があると思います。</p>
<p>放射性物質について</p>	
<p>海底の除染は可能なのでしょうか。</p>	<p>不可能だと思います。</p>
<p>次世代の生物(卵など)へ放射能汚染は移行するのでしょうか。</p>	<p>少量は移行しますが、成長に従って減少しますので、大きな影響はないと考えられます。</p>
<p>ヨウ素、セシウムの数値が注目されていますが、他の放射性物質はどうなのでしょう。</p>	<p>ストロンチウムは、大気中にセシウムの数千分の1程度放出されたとみられていますので、セシウムの値から想定することができます。このため、セシウムが国の規制値を上回っていなければ、問題ないと考えています。 プルトニウムについては、ストロンチウムより、さらに微量に放出されたとみられていますので、健康被害などを懸念する必要はないと思います。</p>
<p>放射性物質は、50日~80日で半減する(体外に排出される)と聞きますが、どうなのでしょう。</p>	<p>50日~80日で半減するのは、筋肉に蓄積されやすい放射性セシウムです。ストロンチウムは骨に蓄積されますので、短期間では減少しないと思われます。</p>
<p>食物連鎖で放射能汚染は濃縮されると聞きましたが、サバやカツオ、サンマなどの回遊魚も濃縮するのでしょうか。</p>	<p>回遊魚への影響は、沿岸域の魚と比較すると、非常に小さいものと思われます。 餌に対して何倍に濃縮するというデータはありますが、海水の汚染状況が日々改善してきていますので、状況は異なってくるものと思われます。 現在、県水産試験場や水産総合研究センターなどが共同で研究を開始したところです。</p>

質 問	回 答
<p>食品の放射能の規制値は、現在のままでよいのか。国によって規制値が異なるのはなぜか。</p>	<p>現在の規制値は、緊急時であることを前提に、日本人の食生活を考慮した上で、年間の被ばく線量の限度を5msvと想定して設定したものであり、“安全”だと思います。                      しかし、“安心”、個々の主観も入るので、年間1msv以下に抑えるという考え方が強いのではないかと思います。                      なお、国では、原発が安定してきたことなどを踏まえ、暫定規制値の見直しを開始したと聞いております。</p>
水産物について	
<p>魚介類の生体そのものへの放射性物質の影響はあるのでしょうか。</p>	<p>現在の放射線量では、奇形や癌などが発生するレベルではないと考えます。                      ヒトと比較して魚は短命なので、濃縮も問題ないと思いますが、クジラなどへの影響となると未知数です。</p>
<p>魚食性の魚の放射性物質が高い傾向にあります。白身や赤身などの身質による違いはあるのでしょうか。</p>	<p>測定した事例を把握していないので、今後の課題になると思います。なお、セシウムは筋肉に入りやすい性質ですので、脂身には少ないと思います。</p>
<p>海底に棲む魚(底生魚)の汚染レベル(何 Bq/kg?, いつまで?)は、どこまで進むのでしょうか。</p>	<p>これまで沖合いでは数値が低い傾向にありましたが、徐々に数値が高くなりつつあるので、今の時点では何とも言えない状況です。</p>
<p>福島以外の近県の魚は大丈夫なのでしょうか。</p>	<p>現在、福島が一番綿密に調査をしていると思っています。                      茨城のデータをみると、マダラ、マコガレイ、ヒラメなどが比較的高い数値を示していますが、福島よりは低く、国の暫定規制値を下回っています。宮城については、測定した事例が少ないため、詳しく把握していません。                      両県とも底生魚への影響を考えると、今後も検査は必要であると思います。</p>